

「かんきょう」パンフレット

第87号 (社内環境情報紙)

2013年6月11日

青柳工業株式会社 環境会議 事務局

私たちの環境活動が目指すもの

アメリカ オクラホマ州で大きな竜巻が発生し、尊い人命を失い、甚大な被害をこうむったニュースが世界中を駆け巡りました。以前に比べ こうした異常気象が多く報道されていますが、どこか、地球のバランスが崩れてしまったようで、日本は湯水で苦しんでいる反面、ヨーロッパでは大洪水に見舞われ温暖化が気象変動を引き起こしているのではと考えてしまいます。

私達が今 取り組んでいる環境活動は、こうした現象の要因となる温室効果ガスを少しでも低減するために、電気使用量の削減、廃棄物削減等に取り組んでいます。焼却することで空气中に排出されるガスや、埋立地などから発生するガスを、たとえ微量でも、減少させるための努力にほかなりません。地球規模で進む環境負荷に取り組むというと、雲をつかむような話に聞こえますが、全ての人の協力で、地道に一步步進めて行く以外に、方法がないようです。



アメリカで発生した竜巻の映像

「防災マニュアル」作成に向けた活動が開始されました

今年の環境目標である、防災マニュアル作成を開始しました。5月は「身の安全の確保」をテーマに委員の意見を聞き取りましたがいち早く外に飛び出した例を、多く聴取されました。しかし、防災上は外に飛び出した瞬間、落ちて来たガラス等にあたり、ケガをする事例が報告されています。そこで皆さんにお願いしたいのは、右図のように揺れが収まるまで、机などの下でじっとして欲しいのです。このような動作を反復して行なうことを、シェイク・アウト訓練といひ多くの地域で、防災訓練の柱として実施しているようです。



シェイク・アウト訓練

水戸市環境保全会議総会に参加しました

6月8日、当社が支援している水戸市環境保全会議の総会が開催され当社からも、代表者が出席しました。今年の事業計画では、環境教室を8月に、研修ツアーを11月に実施するなどの事業計画が承認されました。総会後に行なわれた基調講演では、茨城大学工学部の金利昭教授の「我々にとっての環境の意味」と題して講演がありました。私達をとりまく自然や生物などの環境は、何を考えさせてくれるのか、その価値観や意味は何かといった内容でしたが、当社の環境活動も6~7年経過し、活動全体が開始直後の真摯な気持ちから、様々な思惑が交錯し、本来の意味から逸脱していないかと考えたことがあり、今後の活動の指針になると思いました。詳しい内容は、次回のコラムで報告します。



総会の様子

環境コラム 「ラムサール条約の適用を霞ヶ浦にも」

ラムサール条約をご存知ですか？ この条約は、湿地の保全と賢明な利用を進めるためのもので、日本は1980年に加入し、釧路湿原などが登録されています。湿地というと尾瀬のような場所を思い出しますが人工のものであっても、一時的にできるようなものであっても、水深が6mを超えず、いくつかの条件を満たせば登録が可能になります。この条約が目指すものは、生態系維持のための保全がなされ、バランスのとれた利用や計画的に開発されていることが最大の条件になります。湿原の世界遺産というとわかりやすいでしょうか。その条約に、霞ヶ浦、北浦、濁沼を含めた地域を登録しようとする動きがあります。とても良い活動ではありますが、前途多難なようで、水質の悪化、外来生物による生態系の変化、何よりも、湿原として保全されているかそれが一番の問題です。美しい風景を維持するためには、多くの人たちの理解と協力が必要です。